

大岡越前守金言の事

越前守忠相の享保の頃出方しては様ちより大文の
 あり政情の一人也大岡出方さる。懐心院旅の法小姓
 を勤め思ふよけいある果をあらは御よいよりほ
 二万ろとほか増よては保は用入と成岩附の城さる
 一うはまはは保の法同姓の好方有越前もお方一雲
 ぬの館へまう坊々さる或時越前さる對一はい方さ
 高州世よよて下の大文と稱一は用いも一すか
 ち我も小文よりは元まは新りは政事もを禁りらる
 新りハははるも可奉公ぬハ不情さ縁あり多くと怒
 ころまハ越前も素縁ありて何ハ存安一事とぞ之出方
 了と幸よまうて高州 將軍おの思をよけいを
 備り残りあるはる何ハお家の公ぬあらん志う一志
 の果あるハ御は方のぬはたらん幸中さぬもふ美
 あり新り中讀早て人よ對一ても世の事よまうて
 そ美場を今きてハは斗ある一志う一実を以て合
 き新りハ肝愛のぬはると中され一とまは深く信付
 きて御勤也一大事あるといふもは深たつと政め
 柿堂よ勤仕ありたるそはは清り一と平支配第一
 ありたつよりまはは志う一ぬ

丁の家之（尸付）其方大工道具成押く
 不意取不日計家藏と為地以と尸其内のもの
 料物一月之分積り之不金大工方にてせと尸
 後これ遠宵如く遂に之不目と出さるまこと
 後新所家主方相成さる玉弁也

史料D 木綿盗人

木綿盗人吟味の事

徐川也寺所石地蔵の前より木綿賣の荷物卸して
 何中用事たして看取内より荷物とくく棄元
 去り木綿賣大にり路紀是に也くく其れ共元不
 行未不知依之不及是非事なり一海く吟味難なり
 其多賊好くて木綿の物とく不致ふ其後如也
 海より其地蔵より令く盗人形跡をり一處をりめ
 て是れ縄成魚とくく一地蔵盗人こゝ家つてこの
 小仕宅候より干時津の木綿盗人令く安堵しとく
 盗元一木綿成賣出り一きり取究前の木綿とく
 之とく之元為也りい所中へ小解り此如とく入
 本後買元一との早速もり一柄糸付れとのり
 形し一故にこの柄出りれに盗賊主と相しとく
 小仕宅より如く其形と之教し多教り知の事り
 職と世譽してりあ御

江戸四ツ谷大木下邊よりまゆ二人住の者あり
 まい大坂五番の竹藪元庵に一年余り女房計
 多かりし爲に五番希く翌三年移りて其女
 房の爲中より女房懐妊するに及ぶにまゆ
 是て大死に墮るに女房を多く冷殺して正妻
 密まゝ多かりしに相争ひ何者も
 誰ありしと極に冷殺して女房を責め共其
 其妻誰共之福にま大に膠着して冷血淫殺に
 中まゝありしに女房上考向と安くと之を
 て欠出りありしに冷血中上り殺し杜者五番の徳
 嗣して去る四日夕大坂より女房を爲中より女房
 懐胎何卒密男の冷殺を女房よりしと中より
 ありしを始りて其爲中より女房より多れし
 こと不承知と四死に如く殺し誰もそくとし七
 移産不中只女房を人斗猫一疋飼養しと中
 此れ其猫を養ふ男も女も其冷殺の猫を
 引猫し縄を解く運ぶれと之は月々二人
 是いとあやしに所を切りけりれに福を以て
 引身りきりあり猫は藤之へ産産所内乃
 若死者と計りしに女房より白倒りて
 をりて猫を養ふに女房より彼猫はくくと走り
 若者の由りて一人の藤の上の所へてりけり
 所より時より其猫の藤へ上りて男より
 縄を解きしに男より手より其の走る男より

Handwritten Chinese text in cursive script, arranged in 15 vertical columns from right to left. The characters are highly stylized and fluid, characteristic of the caoshu style.

Handwritten Chinese text in cursive script, arranged in 15 vertical columns from right to left. The characters are highly stylized and fluid, characteristic of the caoshu style.

Handwritten text in Arabic script, consisting of approximately 15 lines of dense, cursive writing.

Handwritten text in Arabic script, consisting of approximately 15 lines of dense, cursive writing.

主殺直助様多事々事

享保の始大恩忠相有以の節直助様多事々事と云主殺一が
少く此直助は保川万年所大恩有云と云醫隊の卜人
少く少く此直助元淺野直助長雄の家長小山田源左
衛門と云者の一子小山田直助と云一者之一々元禄十四
年内直助及殿中より糧薪料^料より仍く田村家より
切腹其家引継せり其折り大石良雄は始年四十
余へ讐敵吉良羽林と討てて時より保元少くは病氣
一して勝不立憚たれり^と一々^一其徒業少くは
随方志忠と是也く直助は少くは随方志忠と文禄十四
年^一其翌三年十二月十五日の夜敵討の前日此直助は
俄り心考り^一三々直助は少くは諸士の宿願并羅動^一ホ
有之候ては死後の批判和^一とく^一金子不有は直助は
り^一と満拂^一て^一知^一く^一お^一分^一き^一れ^一其^一今^一は^一持^一く^一出^一
ま^一不^一悔^一と^一又^一一^一勝^一は^一其^一目^一大^一石^一より^一其^一少^一く^一是^一は^一肥^一前
忠行の刀^一く^一直助の^一其^一少^一く^一と^一及^一其^一少^一く^一直助は
親い言傳の茶を伊勢屋十番と申者に染り奉りしは
是^一一^一城^一く^一少^一く^一直助は^一相^一十二月十五日直上野直助及
の事^一は^一源^一左^一衛^一門^一定^一て^一憚^一た^一直助は^一出^一多^一教^一屋^一一^一石
直死いせ忽ち一少く^一上野直助及討死^一一^一也
杯と崇^一一^一直助は^一一^一直助は^一不^一死^一と^一三^一く^一直助は
一^一由^一定^一て^一和^一が^一後^一及^一老^一人^一の^一人^一目^一包^一前^一く^一腹^一切^一
死^一一^一直助は^一此^一直助は^一已^一く^一不^一存^一故^一其^一親^一と^一直助は^一
其^一罪^一何^一と^一直助は^一謝^一死^一直助は^一直助は^一直助は^一直助は^一直助は^一

其罪同一からん——ゆゑに親を教へ——大不孝主は所
大事と忘れ逃るるは、い何れの天地へ向うか——多分
至る方なりや命は、木——或物、之を醫治し、如く、涸川
百年所——水盡く、其下人、虫物とし、教者、之く、入
念子成、之く、垂くと、思ひ、何れ、要志の、——たん、之く、
か、教、之く、之く、人、る、意、目、成、之く、——起上、——を、其、可、成
例、——有、肥、前、志、以、の、刀、——て、唯一、折、——切、致、其、妻
驚く、起、無、と、是、と、又、切、教、——念、子、成、奈、い、主、退、氏、き、り
此、虫、物、ま、か、人、相、書、と、い、い、小、品、者、——形、教、す、れ、い、衣、着、の、積、思
身、以、考、く、下、人、の、為、——害、せ、く、れ、天、罰、の、報、し、也、思、——
此、れ、此、後、虫、物、い、何、所、こ、ら、く、其、い、あ、何、也、其、相、と、之、
或、い、髪、以、蒸、——茶、葉、と、り、或、杯、去、く、鞠、所、を、丁、目、の、経、卷
四、帝、之、儀、ら、り、——米、菴、以、去、く、有、多、教、時、百、悔、ら、れ、白、倒、く
出、す、拙、者、若、く、虫、物、り、し、い、之、く、破、と、中、候、り、此、時、大、忌、及
虫、物、少、し、之、く、く、主、と、く、と、皆、り、多、く、疑、を、立、論、く、
之、教、知、り、思、い、易、——便、大、困、大、苦、——虫、物、待、し、中、こ、れ
い、れ、い、ま、り、と、之、く、下、——有、教、未、絶、以、愈、よ、曲、者、也、之、
——家、名、と、呼、れ、不、思、者、り、と、近、昔、之、り、中、く、天、命、之、
命、之、り、何、の、思、く、く、之、り、——と、し、り、五、升、之、れ、い、さ、
く、の、い、は、く、者、流、——白、状、——有、い、き、——同、時、持、之、と
中、者、是、其、主、成、教、せ、——何、く、何、か、——川、也、——
日本、橋、——二、日、き、——
磔ウチマツと、引、い、ま、多、く、り、と、こ、